

2023年4月11日

入学式式辞

本日ここに、聖光学院高等学校第62回入学式を行えますことを心から嬉しく思います。福島では早くも桜が散ってしまいましたが後を追うように桃の美しいピンクの花や鮮やかな黄色の菜の花も加わり、一年で最も美しい季節になりました。

新入生の皆さん・保護者の皆様、入学まことにおめでとうございます！ようこそ聖光学院へ！教職員はじめ関係者一同心から歓迎しお慶び申し上げます。今年も県内ばかりでなく県外から多くの入学生が与えられました。有難うございます！長引くコロナ感染のため、今年も来賓のいない簡素な入学式になってしまったことを残念に思います。既に寮に入った生徒諸君もいますね。食事は美味しいですか？良く寝られますか？ホームシックにかかっていますか？202名の新入生諸君、頑張って1年生のスタートを切りましょう！

さて、入学式にあたり3つのことを申し上げ、校長式辞にしたいと思います。

第一は、高校3年間明確な目標を持ち、その実現に向けて日々努力して欲しいということです。しっかり勉強に取り組んで大学に進学

すること、たくさん資格を取って優良企業に就職すること、部活で全国優勝をすることなど、目標を掲げ、日々努力してください。

WBC の抑えで活躍した湯浅京己投手は聖光学院の卒業生です。遙々紀伊半島の三重県・尾鷲から聖光で野球がやりたくて入学してきました。恵まれた体を持っていましたが、在学中は体の故障に悩まされ、辛くて一時は学校を辞めて故郷に帰ることまで考えたようです。でもどうしてもプロ野球で活躍したいとの夢を捨てませんでした。3年間レギュラーになれず、甲子園のベンチ入りも叶いませんでしたが、夢を追い続け努力を怠りませんでした。その努力が大きく開花し昨年一気にブレイク、阪神のセットアッパーとして大活躍し、栗山監督から侍ジャパンの一員に選ばれて大活躍しました。強い意志を持ち続けて夢を忘れず、人の何倍も努力したからこそ今の湯浅京己君があるのです。諸君も湯浅君のように、はっきりした目標を持ち、その目標を実現するため日々努力を続けてください。

第二は、本校の「建学の精神」であるキリスト教の愛についてであります。聖光学院が創立以来一貫して大切にしてきたものは「愛」です。本校の校門には、日本語で「愛」、ギリシャ語で「アガペー」の字が刻まれています。教師も生徒も愛をもった人間であって欲しい、

という願いがそこに込められています

例年伊達市では、冬2～3度雪が積もります。そんな時、多くの運動部の生徒が早朝や放課後、雪掻き奉仕をします。野球部の寮生は朝早く起きて、伊達小学校に向う道を除雪します。「お陰で子供たちが安全に登校できました。本当に有難いことです！」といつも伊達小学校の校長先生がお礼に来てくれています。

また、本校生の元気のよい素晴らしい挨拶も愛の表れです。以前本校から少し北にある「醸芳中学校」の校長先生をされていた大木修先生が、醸芳中学校の機関誌『碧天』（へきてん）にこのような文章を載せてくださいました。「かなり前の正月2日のことです。併願受験する聖光学院高校のテニスコートを見たいという息子と共に、車で聖光学院に行きました。雪が激しく降っていました。私と息子は車を降りテニスコートに向いました。すると突然「練習やめ！こんにちは！」という大きな声が響き渡りました。野球場からでした。こんな雪の日も練習しているんだと驚きました。それ以上に挨拶に驚きました。なぜなら、野球部員の姿は降りしきる雪のためボンヤリとしか見えなかったからです。彼らはエンジンの音が止み、ドアが閉まる音を聞いて、その方向に向かってしっかりと挨拶したのです。凡事徹底、

挨拶という当たり前のことを人には真似ができない程一生懸命にやる。平凡を非凡に努める姿がそこにありました。その姿勢が全国的にその名を馳せる今に繋がっているのだと思いました」と。君たちも先輩に負けない位、笑顔で元気な挨拶をする生徒になってください。挨拶をされた人も挨拶をした君も、幸せを感じる筈です。

第三は、我々教職員についてです。希望をもって聖光学院に入学された皆さんを指導する本校の教職員は、自分を磨きつつ、全力で皆さんを指導しサポートしていくことを約束します。宮沢賢治の作と言われる「私が先生になったとき」という詩にこうあります。

私が先生になったとき

自分が真実から目をそむけて

子どもたちに 本当のことが語れるのか

私が先生になったとき

自分が未来から目をそむけて

子どもたちに 明日のことが語れるのか

私が先生になったとき

自分が理想をもたないで

子どもたちに いったいどんな夢が語れるのか

私が先生になったとき

自分に誇りを持たないで

子どもたちに 胸を張れと言えるのか

この詩は、教師たる者は、自分の生活のためにただ漫然と勤めるサラリーマン教師であってはならず、自分が教える教科においても、人格においても、自分の教育に対して責任を感じ、教育への情熱を持ち、自ら生活の基本ルール・習慣を身に着ける闘いを辞さない教師でなければ、教育はできないと言い切っています。本校の教師たちは、ここに書かれている教師像を目指して、ひたむきに努力しつつ君たちの教育・指導に力いっぱい当たることを誓います。

以上の三つが一つになる時、今日の聖書の言葉「愛する者たち、互いに愛し合いましょう」という聖書の教えが実現するのだと思います。

最後に、皆さんの今日からの聖光学院での生活の上に、神様の豊かな導きと祝福がありますように心から祈り願いつつ、校長式辞と致します。

2023年4月11日 聖光学院高等学校校長 新井 秀